



○ 勝山市の経済の今後について

市議会
帰山 寿憲
議員



議 勝山市の経済の見込みについて今後3年間の投資見込みとそれに伴う経済効果及び賃金のあり方について伺う。

理 公共投資により見込まれる経済効果は令和6年度から令和9年度にかけて、様々な建設事業が予定され、国、県、市そして民間事業者の資金が投入される。県が提供している福井県経済波及効果分析ツールを使用して計算すると、200億円の投資に対する投資額を含めた県全体の経済波及効果額は29.4億4,000万円となり、これを勝山市に置き換えると、勝山市全体の経済波及効果額は2.53億6,000万円と試算することができる。

地域経済波及促進のための取り組みとしては、工事関係者の食事の発注などを市内の事業者が受注できるように斡旋を行い、市内の宿泊施設とのマッチング、紹介を行うなどの取り組みを重ね、地域経済にこの投資が波及するよう努力したいと考えている。

県立大学恐竜学部(仮称)の建設を例に上げると、直接の投資、建設に係る様々な費用、さらにはバスの運行や、

アパートの建設、飲食店が非常に重要になり、利用等の経済効果がある。飲食についてはキッチンカーの活用とともに、道の駅の周辺に飲食スペースをもっと設ける必要があるのではないか、あるいは大学の学生に供するための飲食をどう提供するかをしっかりと考えたい。

市内事業者の活性化が市全体の活性化につながることは十分認識しており、今後事業所や商工会議所と協力しながら、地元経済に波及する施策を考えていきたい。

勝山市の雇用と賃金、その確保については、勝山市と福井労働局及び勝山商工会議所と連携し、雇用対策協定運営協議会を設置している。この中において奥越地区の雇用状況や、国の新たな状況、対策等について協議をしながら情報共有、検討、問題提起などを頻繁に行っている。今後も福井労働局、商工会議所等と連携しながら、雇用の確保、賃金の上昇について取り組んでいきたい。



○ 新中学校再編にかかる立地場所の根本的内容とその議論について
○ 勝山まちなか観光の未来図について

優政 一心会
富士根 信子
議員



議 ハザードマップの土砂災害特別警戒区域や浸水実績区域の近隣に建設を強行する理由について、及び市民の理解を求めるために勝山高校敷地内建設の内容説明だけではなく、敷地内に建設する理由と併設の話し合いの場を設けない理由について伺う。

理 近隣に土砂災害特別警戒区域や浸水実績区域があるとのことでご心配いただいているが、新中学校の建設場所は制限のある場所ではなく、建設は勝山高校の併設で進め、災害に対する対策や避難時の行動など、防災の強化に向けてしっかりと対応していきたい。

勝山高校への併設は、平成30年度に設置した勝山市立中学校再編検討委員会で検討され、立地場所は、中高連携を進めるため、勝山高校との併設が最も望ましいとの答申が示された。その後、様々な議論の過程を経て、市民からのご意見等を伺い、計画に取り入れながら進んできた中で、現在、基本設計に取り組んでおり、これまで重ねてきた議論を改めて問う場を設けることとは考えていない。

今後勝山市、商工会議所、DMO法人勝山市観光まちづくり株式会社、勝山観光戦略協議会、民間事業者との協働によるまちなか誘客について検討していきたい。

議 市民が勝山の環境や伝統、歴史、文化を学ぶ機会を設定し、頭と身体をつかい、健康な人生を楽しめるようにするために観光健康ウォーキングコースなど勝山駅を拠点として、案内板や観光トイレの設置、歩道の整備などを行い、勝山市内観光として様々な団体の協力を得て取り組んでどうか。勝山まちなか観光の未来図をどのように描いているか市の見解を伺う。

理 勝山市の魅力を訪訪者に知っていただくためには市内の地域資源を多くの市民の方々に知っていただき、魅力に触れ、理解していただくことが重要であると考えており、各種団体の方々との連携を図っていききたい。併せて見学会などへの一層の参加者確保、事業の改良や充実を図りつつ、事業自体、広く広報していきたい。